

2005年5月24日

(第4回金融経済教育懇談会 レジメ資料)

媒体・伝え方について

キャスター 生島ヒロシ

第3回で配布された「副教材配布に際し行った金融経済教育に関するアンケートの回答結果」には、現在の教育現場の受け止め方の一端が示されていた。取り組みや副教材に対しては高評価の意見が多いように感じられたが、同時に、現在の金融経済教育に対する課題もあげられていた。特にPRに関してはまだまだ不十分であるようだ。

いかによりよい教材を作っても、それが広く普及し、伝わらなくては意味がない。

そこで今回は、今後、金融経済教育をどのように展開していくのがよいか、特に普及という観点から述べていきたい。

1、メディアを使って、「金融経済教育」をどのようにPRし、普及するか？

アンケート「これまでの金融庁の金融経済教育に関する取り組みについて」で「不十分である」との評価の理由として、圧倒的に多かったのが「教育現場へのアピール等PR不足であるため」であった。

そこで、一番目に、大きくメディアを使っのPRについて考えてみたい。官庁や専門家からだけではなく、世論となってムーブメントをおこすような取り組みにすれば、より教育現場にも浸透しやすいと考えるからだ。

① 普及方法 広報といえば広告という発想から、PRという視点を持つ

広報宣伝活動 (2つの手法)

★宣伝

お金を出してメディアの紙面やコマーシャル枠を購入。その枠で広告を打つ。

★PR (Public Relations の略語)

新聞や雑誌、テレビ、ホームページなどのメディアに「記事」「番組」のかたちで、告知したい情報を流してもらう

対象となる伝えたい情報を「ニュースのかたち」でメディアに伝えてもらうこと

「最大の広告はニュース」

②ではどのようにニュースを作るか？

＊あるPR会社の例

③「告知」から「説得」へ

「共通言語」で「信頼」を

★アメリカ広告業界に流布している有名な話

④「ニュース作りの法則」

2、どのように伝えるか？

中学生及び高校生を対象とした副教材「インターネットで学ぼう わたしたちの暮らしと金融の働き」についてのアンケートによると、初めてパンフレットを見た際の評価は「見やすい」「適切である」が過半数を占めていた。

しかし、メディアの視点からすると、「分かりやすい」が「おもしろくない」のではないかという印象を得た。経済になじみの少ない人たちにも普及していくには、分かりやすさと同時に、おもしろさ、つまりエンターテインメント性がないと受け入れがたいと考える。そこで2番目に、どのように伝えるかを考えてみたい。

①いかに分かりやすく、おもしろく伝えるか？

「NHK週刊こどもニュース」への取材

- ★ 気を配っていること
- ★ なぜうけているのか？
- ★ 実際の方法
- ★ 金融経済教育について

②金融経済教育に関するヒーロー、カリスマを作る

「Roll Model」を作る

3、教育現場にどう普及させていくか

では現場で金融経済教育が行われるには、どうすればいいのか。素人の目線から感じたことを述べてみたい。

①悪いイメージの払拭

先生、親への意識改革

金融経済教育の必要性を痛感してもらう

「お金を稼ぐことは卑しい、お金の話をするのはタブー」という固定観念の払拭

↓

きちんとした、かつ統一したコンセプト作り

②ファイナンシャルプランナーの有効活用

アンケート「これまでの金融庁の金融経済教育に関する取り組みについて」は、認知度も高く、評価もこの程度で十分であるという結果が大半を占めていた。

しかし「十分である」との評価の理由とは？

第一位 授業で積極的に取り組むゆとりがない

第二位 教諭の事務負担が過大

「現状でいっぱいだから、もう十分」という印象をうける。

この改善策として、ファイナンシャルプランナーの有効活用を提案したい。

★FPの課題の1つ

「資格は取ったが、実社会で有効にその資格を生かせていない」

★金融経済教育の現場での課題

「先生自身がよく分かっていない」「負担の過大」

両者が結びつければ、金融経済教育のよりよい相乗効果が生み出せるのではないかな？

F Pの継続教育取得単位（AFP 必須15単位、CFP 必須30単位）として、現在認められている「講師業務」は「FP など専門的知識を持つ人に、FP に関する研修を行った場合のみ認定（1時間1単位）」と対象者がFP など知識を持つ人に限られている。

今後は対象者を、市民や小学生、中学生にまで裾野を広げてはどうか？

【まとめ・提案】

- PR という視点から、「金融経済教育」に関するニュースを作り、多くのメディアに取り上げてもらう。世論で金融経済教育が必要というムーブメントを起こす。
- 「分かりやすさ」と同時にエンターテインメント性も入れてみる
- 子どもが憧れるカリスマ・ヒーローを作る
- 保護者や現場の教師が「金融経済教育をすぐに取り入れたい」と思うような統一したコンセプト作り
- F Pの継続教育取得単位に、「市民や小学生、中学生への講師」も認め、現場の教師に頼るのではなく、FP が積極的に教育に携わる